

第9回阪南みらい会議 会議要旨

○日 時：平成22年5月15日（土）

19:00～21:00

○場 所：市役所3階 全員協議会室

○出席者

委 員	9名（欠席者12名）
アドバイザー	近畿大学 久教授
事 務 局	総務部理事、みらい戦略室5名、 パシフィックコンサルタンツ（株）1名

（1）会議の進め方について

（まとめ）

- ・今回は人数も少ないため、全体会議の形式とし、「今後の会議の進め方」について話し合う。

（2）今後の会議の進め方と方針について

（委員の意見）

- ・今まではグループ形式で個別の問題について考えてきたが、会期もあと1ヶ月となり、そろそろまとめに入っていく時期である。
- ・まとめていくのは賛成である。これまでの会議で出た個別の内容について、どのようにまとめてキャッチフレーズにまで持っていくのか。個別の議論から脱して、大きなテーマに持っていくためにはどういう手法をとればよいか。

～久教授アドバイス～

- ・個々の問題をまとめる共通項について、それぞれが何を目指しているのかを分かりやすいキャッチフレーズに置き換えていくと、目指すべきまちの姿が言葉として見えてくるのではないかと。

（例）

ネットワーク社会を目指す→「資源のつながるまちづくり」

- ・人的資源のつながり：協働
- ・地域資源のつながり：観光

市民に活力を与える社会を目指す→「市民がいきいきと過ごせるまちづくり」

- ・「○○のまちづくり」とか、いくつになるかは分からないが、いくつか出たら、それらに共通したものを見つけることにより、ひとつの大きなキャッチフレーズが出来上がってくる。

（委員の意見）

- ・これまでの会議で出てきている内容を、キャッチフレーズにできるものと、個別の因子として置いておくものに整理して、共通点を見つけて括っていく作業を行っていくのはどうか。個別の問題は「何を目指しているから、それが問題となっているのか」について分析し、それぞれの問題

を何らかの共通点で分類する。その共通点に対してまた分析を行い、分類する。その作業を繰り返していくと、委員の総意として「どのようなまちを目指していくのか」が見えてくるのではないかな。

(3) 委員の想いについて

- ・大きな目標としてのキャッチフレーズを作るにあたり、ネットワークの構築に言及すべきという意見もあるが、ネットワークの構築は手段であり、まちづくりの方向を示すべき大きな目標であるまちの将来像と同列に組み入れるのはいかがかな。
- ・良い計画であっても実現できていない部分もあるので、重視してほしいポイントをキーワードにして示して、市民が一緒になってする方法を考えていくことが必要である。
- ・想いを共有できるキャッチフレーズを作れば、市民の意識も変わる。それぞれの活動に参加する市民も増えるだろう。
- ・個々の活動に応じたネットワーク化をしなければ、有効とは言えないではないだろうか。
- ・キャッチフレーズを作るにあたって個別の事項として挙げるのは、これまでの会議で共通認識を得ることができたものに限ってはどうか。

～久教授アドバイス～

- ・ネットワークの構築に関しては、これまでの会議の中で10年間の目標として重要であるとの共通認識が取れているかと思う。まちづくりのためにこれから基盤を作っていこうという意味で、今後10年間のまちづくりの大きな目標として、ネットワークの構築を入れてもよいのではないかな。
- ・市民の側からの働きかけとして、自らが積極的に行動することで、各組織にアプローチしていくという方法もある。
- ・大切なのはキャッチフレーズではなく、そこに込められた「想い」であり、例えるなら社是・社訓のようなもの。そこに込められた想いを説明し、キャッチフレーズとして覚えてもらえれば、「市民全体が想いを共有」してまちづくりに対してひとつになって進んでいける。
- ・(提案) キャッチフレーズを作るうえで、個別の問題を整理していく軸
 - ①「人」・・・個人の生活に関係することについて
 - ②「社会」・・・人と人との関係に関わることについて
 - ③「環境」・・・社会と環境の関係に関わることについて
 - ④「仕組み・しかけ」・・・人や組織、資源を繋ぐ仕組みに関わることについて

(4) 会議のスケジュールについて

- ・会議のスケジュールについては、以前「行政の決めたスケジュールであるから特に意識する必要はない」という意見もあったが、我々委員もそれぞれ貴重な時間を割いて出席しているため、6月末の結論を目指していくべきである。

(5) 次回の日程について

5月28日(金) 19:00～

以 上